SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

S10
コミュニケーションシステムの形成における自閉症スペクトラム傾向の役割（ポスターセッション：シニア部門）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小嶋, 暁, 紅林, 優友, 森田, 純哉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/10453

S10

コミュニケーションシステムの形成における自閉症スペクトラム傾向の役割

小嶋暁（情報社会学科），紅林優友（情報社会学科），森田純哉（行動情報学科）

本研究は、コミュニケーションにおいて個人の特性が大きく関わっていることに注目し、コミュニケーションに影響する個人特性として、自閉症スペクトラムに焦点を当てる。この特性は、社会生活における困難を導くこともあるが、現代につながる重要なイノベーションに関与してきたとこも示唆されている（Grandin and Panek, 2013, ″The Autistic Brain Thinking across the spectrum″）。そこで、自閉症スペクトラムを障害とみなすのではなく、新規なコミュニケーションの形成に何らかの役割を果たす個人特性と考える。本研究では、単純な人工言語を生成するコミュニケーションゲームを実験環境とし、そこから得られたゲームスコア、得点までの過程を分析する。また、個人特性としての自閉症スペクトラム指数（AQ）とゲームから得られたデータとの対応づけを行う。本研究から得られた結果によって、コミュニケーションの多様性のメカニズムが明らかになると考えられ、自己あるいは対話相手の自閉症スペクトラム傾向に応じたコミュニケーションの支援に応用できると考えられる。

（森田研究室）

S11

カナダにおける日本アニメの受容
―現地での調査票調査をもとにした考察―

栗田佳樹（情報学研究科）

本研究は、2016年のカナダ滞在期間に実施した、カナダの日本アニメ視聴者62人を対象とした調査票調査の分析をもとに、海外ファンのアニメ受容について考察するものである。クールジャパンに代表されるコンテンツ産業振興策には「日本のアニメは海外で人気」という前提がある。それに対し異論もあるが、どちらの立場も興行成績やソフト販売件数等を根拠とし、海外視聴者のアニメに対する生の声を集めた調査はほとんどない。そこで、日本アニメは、ディズニー・アニメーションやカナダを本場とするアート・アニメーションとは異なる特徴をもった独自のコンテンツとして受容されているという仮定のもと調査を行った。その結果、回答者は子ども向け作品カトゥーンと日本アニメを別のものとして認識しており、大人（特にヤングアダルトとされる若者）が共感できるストーリーや映像表現に日本アニメの魅力があるとする意見が目立った。調査対象者のアニメ視聴のプラットフォームはインターネットだが、アニメに触れたきっかけはテレビ放送が多い。アニメ作品の海外流通についてはインターネットを通じた違法な動画共有が問題視されているものの、調査対象者の消費行動の分析では、彼らは単なるフリーライダーではなく、作品を楽しむためであれば投資も吝かではなく、正規の消費ルートを求めていることが分かった。

（森野研究室）